

赤こんりポート

東恵子リポーター



自然の大切さ ぼんぼりにこめて

市の中央を流れる白鳥川は、遊歩道があり桜の名所です。川を臨む桐原東小学校では、3年生は川の周辺を歩き草花を調べたり、5年生は川に入って魚を採ったりするなど、段階を踏んで学習しています。

白鳥川の景観を良くする会（通称 景観隊、吉田栄治代表）が行っている環境学習で、同会が毎年実施している桜並木のぼんぼりの絵は、5年生がその集大成として自然の大切さや将来の夢を描いています。

この春5年生になる村松佳奈さんは「近くにこんなきれいな場所があって幸せ。ぼんぼりの絵を描くのが楽しみ」とうれしそうでした。

3月26日



不安な日々を過ごす子どもたちにおにぎりを

新型コロナウイルス感染拡大防止のために、市内の子ども食堂の休止が相次ぐ中、市社会福祉協議会（寫本深照会長）は、家に閉じこもりがちになっている子どもたちの不安や寂しさをやわらげようと、市内8つの子ども食堂実施団体などに呼びかけ、春休み中に3日間、希望する子どもたちに手作りのおにぎり弁当を届けました。初日は、きりっ子食堂を開催している5人の女性スタッフらがエプロンやマスクなどを着用し、同協議会に寄付のあった備蓄米をガス炊飯器で炊き上げ、鮭とワカメをまぶしながら70個余りのおにぎりを手際よく完成させ、約30人の子どもたちに届けられました。

同協議会の重野弘樹さんは、「春休みの子ども食堂を楽しみにしていた子どもたちの不安を、少しでも和らげられれば」と話しました。

赤こんりポート

馬場利男リポーター



子ども文化芸術賞作品展が
市役所1階ロビーで開催

子どもの文化芸術活動を奨励する令和元年度の子どもの文化芸術賞受賞者の作品展が、市役所1階ロビーで3月13日から27日まで行われました。

今年は新型コロナウイルスの影響で、表彰式を兼ねた活動発表の場がなくなりましたが、子どもたちの素晴らしい作品は、市役所を訪れる多くの市民の目を楽しませてくれました。



4月6日



「インスタ映え」な待合室が完成
西武ライオンズが近江鉄道近江八幡駅を彩る

近江鉄道の近江八幡駅に、プロ野球チームの埼玉西武ライオンズをコンセプトとした、冷暖房完備の待合室が新設されました。2番ホーム側の外壁は、新町通りや八幡堀など近江八幡の町並みや風景、名所をバックに西武ライオンズの主力選手らをあしらったデザインに。内部には、野球をイメージしたベンチや腰掛けを設置し、特に、昨年パ・リーグの首位打者で MVP にも輝いた捕手の森友哉選手の等身大パネルは、インスタ映えも抜群。埼玉西武ライオンズを身近に感じることができます。



岡山幼稚園が66年の歴史に幕
新たに民間の認定こども園が開園

3月31日をもって66年の歴史に幕を閉じた市立岡山幼稚園にかわって、隣接する岡山コミュニティエリアの一角に、民間の認定こども園である「岡山紫雲こどもみらい園」（社会福祉法人紫雲会、藤本晃法園長）が4月1日から開園しました。3月27日に岡山幼稚園の閉園式があり、園旗が道尾治美園長から小西理市長へ返納されました。岡山紫雲こどもみらい園は、鉄骨造2階建て。各保育室の大きな窓から陽の光が差し込み、明るく開放的な園舎で0～5歳児211人の乳幼児を受け入れ、保育がスタートしました。

4月5日



市民を守る決意新たに
市消防団に51人が入団

近江八幡市消防団（中田幸雄団長）の今年度の入退団・階級昇格式が、市防災センター（近江八幡消防署内）で行われ、出席した団幹部や昇格者、新入団員らが市民の生命や財産を守るための決意を新たにしました。

式典では、小西理市長から池田秀夫前消防団長に、中田団長から川崎孝前岡山分団長などの退団者に辞令を授与し、階級昇格者に任命証が授与されたあと、51人の新入団員を代表して武佐分団の堀井壮嵩さんが「良心に従って忠実に消防の義務を遂行します」と誓いの言葉を述べました。今回の入退団により市消防団は12分団・476人となりました。



近江八幡市公式
Instagram



「#走れ赤こんくん」に投稿を

市内で撮ったとおきの写真に、ハッシュタグ「#走れ赤こんくん」を付けてつながりましょう！投稿いただいた写真は広報紙面などで紹介させていただきます。



@nori_paseoさんの作品